

晴れの 234名が



▲夢、希望に胸ふくらませる成人者

在り方に責任を持って、一人で開け立てする、そんな「心の持ち方の鍵」にしたいと、願っています。

壁に突き当つても崩れない私

原方 加瀬三佐恵



月日のたつのは早いものです。小学生の頃、早く大人になりたがっていた自分が、今、思うとなつかしくなります。二十歳の人を見ると妙に大人っぽく見えた時があったのに、いつの間にか私も二十

歳になってしまいました。歳を聞かれて「二十歳です。」と、答えた後、何んとなくはさかしさがこみあげてきて……。ですから「成人」になつての決意は」と、聞かれてもドギマギして答えられない状態でした。

「成人」大人の社会への仲間入りです。そして社会的に認められることとなります。お酒、たばこ成人映画、ギャンブルも堂々と、できるようになります。そして何よりも意義があることは選挙権を与えられたこと。私はまだ実際に投票したことがないので、実感はありませんが、私たちは投票することによって、政治に参加することができるようになりました。住みよい町をつくるため、住みよい国を築き上げるために、私たちは

自分の気持を反映させる権利が持てたのです。その権利を生かすため、いやその前に社会の一員としても私たちは今の政治、経済、社会等の実情に深い関心を持つことが大切だと思います。

有権者の中でも自分とは、直接関係ないように考えて、無関心な態度を取る人もいますが、私たちは選挙権を持つ初心者。新鮮な気持ちで取り組みましょう。特に今年、選挙の年と言われている。私も重みのある一票を投じたいと思っています。

私は四月から社会人としてスタートします。

トします。今までは経済的には親のスネをかじり、精神的には未熟な子と言うことで、家族に甘えていました。しかし、四月からは自分で稼いだ給料で生活し、また対人関係においても、今までのように同年齢の人たちとのつき合いだけでなく、幅広い年齢層とつき合うこととなります。私の本当の意味の成人としてのスタートは、そこからだと思います。自分がどれだけやれるか試す時であり、社会からも私の真価が問われることとなります。

しかし、まだまだ人間的に未熟



▲ 234名の成人者を代表して夫婦松を光中校校庭に植樹する伊藤定幸さん、林新一さん、宇井かつ江さん、布施弥生さん(左側から)

な自分をみた時、果たしてその場でやっていけるだろうか、言う不安がいつもつきまといまいます。そこで私が今、考えていることは「少しづつでもよいから人間的に成長したい」と、言うことです。一言で言うとは簡単ですが、とてもむずかしいことだと思います。私はその糸口として「自分をもう一度よく見つめ直して行きたい」と、思っています。その方法として、日記なり何んなりにその日のできごとやその日、話した人との会話などを丁寧に書き込み、そこから自分の行動を見つめて行き、分析して行きたい。いや自分だけでなく、自分の周りの人をも見つめて行くことによって、いろいろな人から学び取って行きたい、言うことです。矢沢幸さんの詩に「自分だけに」と、言う題で「自分だけにこり、かたまらないように注意しながら、自分を見つめたい。」と、言う短い詩があります。とにかくまだまだ現実に対して社会に対して、甘い考えを持っているところがありますが、これから社会に出て、壁につきあたってもくずれない自分。どんな困難も乗り越えて行ける自分を築き上げて行きたいと思っています。

広報室から

紙面のスペースの関係上、文章の一部を添削いたしましたので、ご了承下さい。